

## 事業評価シート

事務事業名	青少年教育事業	担当課名	社会教育課
総合計画の 主要施策名	個性と想像力を持つ子どもの育成	班 名	生涯学習班
		事業コード	4231

事業の目的	さまざまな体験学習の機会を提供し、自ら考え行動する「生きる力」を育む。地域の方々を学校に派遣し、教育活動を支援するとともに異年齢交流を促進する。			
事業の内容	わくわくスクール、親子体験事業、学校支援地域本部事業の実施・思春期子育て講座の開催			
事業の対象	地域住民及び町内の小中学生			
事業費	年度・区分	平成20年度決算	平成21年度決算	平成22年度予算
	金額	1,356 千円	5,001 千円	5,598 千円

事業の効果等	わくわくスクール(夏休み・春休み)では、地域の方々のご指導で様々な体験活動を実施できた。子供達の創造性、協調性を育む場ともなり、事業が定着してきている。親子のふれあいを目的とした「親子陶芸」や「親子料理」では一緒に作業をすることで、楽しさを共感できる場を提供できた。学校支援地域本部事業では地域の方々が学校の教育活動に参加し、子供達と交流を深める機会となった。また、参加した大人自身の生きがいづくりにも結びついた。思春期講座は生命の大切さや生きる意味について考えるよい機会となっている。
--------	---

事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか。)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
判定説明 及び考察	学校支援地域本部事業は、地域と学校の結びつきを再構築するきっかけとなり、子供達の豊かな人間性が育成されるとともに、地域の方々は自己実現を得ることができるなど効果があった。思春期講座では、保護者の参加も効果的であるが、時間をとることが難しく、学校との連携を密にとることが必要である。			
事業の 方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ継続する	

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり。
------	---	--------	-----------